



滋賀の伝統的工芸品



はじめに

滋賀県は、琵琶湖を中心として広い平野と変化に富んだ山々に囲まれ、水と緑の豊かな自然環境の中で多くの恵みを受けてきました。また、昔から東西の交通の要衝として人とももの行き交い、この利点を活かし先進的な産業や独自の文化が発展してきました。

このような自然環境や歴史に生まれ、素朴でありながら優美な伝統的工芸品が数多く作られ、人々の生活に受け継がれてきました。しかしながら、生活様式の変化に加え海外からの安価な輸入品の増大などにより、伝統的工芸品を取り巻く環境は非常に厳しくなっています。

伝統的工芸品は、私たちの生活のなかで、ゆとりと精神的な豊かさを実現する品々であり、特色ある地域づくりのためにも、その役割が期待されているところです。

県では、伝統的工芸品の振興を図るため、昭和58年度に指定制度を設け、翌59年度に第一次指定を行い、以来、逐次指定の見直しを行ってきました。今回第10次の指定にあたり広く県内外の皆さんに本県が誇る伝統的工芸品を紹介するため小冊子を編さんいたしました。

私たちの伝統的工芸品が多くの人々の手に触れ、暮らしのなかで身近なものとして愛着をもってお使いいただくことを願っております。

平成27年3月

滋賀県商工観光労働部中小企業支援課

目次

○伝統的工芸品について（知事指定・経済産業大臣指定）	1
○伝統的工芸品の一覧表	2～3
○伝統的工芸品マップ	4
○滋賀の伝統的工芸品	5～23
・知事指定伝統的工芸品	5～23
織物・染物など	5～12
網織紬／秦荘紬	5
綴錦／ピロード	6
正藍染・近江木綿／手織真田紐	7
草木染手組組紐／近江刺繍	8
彦根紬／楽器糸	9
鼻緒／特殊生糸	10
押絵細工／近江真綿	11
輪奈ピロード	12
陶器	12～13
膳所焼	12
近江下田焼／（再興）湖東焼	13
木・竹工品	14～17
提灯／ろくろ工芸品	14
竹根鞆細工／木製桶樽	15
高島扇骨／上丹生木彫	16
八幡丸竹工芸品／木珠（高級木製数珠玉）	17
仏壇	18
浜仏壇／鍔金具	18
和紙・文具など	19～23
近江雁皮紙／雲平筆	19
和ろうそく／太鼓	20
大津絵／梵鐘	21
小幡人形／愛知川びん細工手まり	22
いぶし鬼瓦／神輿	23
・経済産業大臣指定伝統的工芸品	24～26
信楽焼	24
近江上布	25
彦根仏壇	26
伝統工芸士一覧	27

伝統的工芸品について

長い歴史の中で培われ、地域の人々の生活と密着しながら受け継がれてきた工芸品を、滋賀県知事、経済産業大臣が伝統的工芸品として指定しています。

知事指定 滋賀県伝統的工芸品

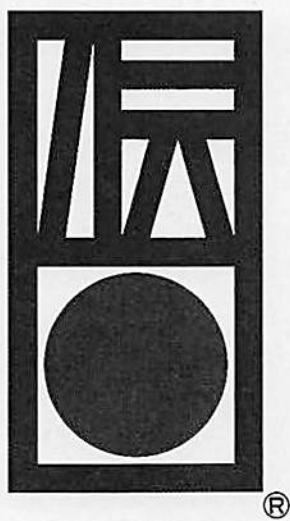


伝統的工芸品の振興を図るため、「滋賀県伝統的工芸品指定要綱」に基づき次の要件を満足するものについて知事が指定します。

1. 主として日常生活に使われるもの
2. 製造工程の主要部分が手工的であるもの
3. 伝統的な技術または技法により製造されるもの
4. 伝統的に使用されてきた原材料を使い製造されるもの

現在、38品目、44製造者の方が指定を受けています。

経済産業大臣指定 伝統的工芸品



伝統マーク
承認番号27-030

昭和49年5月に制定された「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づき経済産業大臣が指定するもので、次の要件を満足することが必要です。

1. 主として日常生活に使われるもの
2. 製造工程の主要部分が手工的であるもの
3. 伝統的な技術または技法により製造されるもの
4. 伝統的に使用されてきた原材料を使い製造されるもの
5. 一定の地域で産地形成しているもの
(10企業以上、または30人以上の人が製造に従事)

県内では、彦根仏壇、信楽焼、近江上布の3工芸品が指定されています。全国では、伝統的工芸品219品目、伝統的工芸材料2品目、工芸用具1品目が指定されています。(平成27年1月現在)

(この伝統マークを使った伝統証紙が貼られている工芸品は、産地組合等が実施する検査に合格した伝統工芸品です。)

滋賀の伝統的工芸品一覧表(経済産業大臣指定伝統的工芸品を含む)

区分	番号	工芸品名	製造業者名	製造地域	電話番号	指定	
織物・染織・組みひも・刺繍など	1	近江上布	滋賀県麻織物工業(協)	愛荘町	0749(42)3246	国	
	2	網織紬	奥田武雄	長浜市	0749(76)0733	②	
			奥田重之				0749(76)0369
	3	秦荘紬	川口織物(有)	愛荘町	0749(37)3091	①	
	4	綴錦	織匠[宗八](株)清原織物	守山市 米原市	077(583)5711	①	
	5	ビロード	長浜ビロード振興協会	長浜市	0749(62)4111	②	
	6	正藍染・近江木綿	植西恒夫	湖南市	0748(75)0128	②	
	7	手織真田紐	西村幸	東近江市	0748(22)2652	②	
	8	草木染手組組紐	(有)藤三郎紐	大津市	077(522)4065	②	
	9	近江刺繍	近江美術刺繍工芸社	愛荘町	0749(42)2686	②	
	10	彦根刺繍	(有)青木刺繍	彦根市	0749(22)1258	⑥	
	11	楽器系	西山生糸組合	長浜市	0749(82)4114	①	
			木之本町邦楽器原系製造保存会				0749(82)4127
			丸三ハシモト(株)				0749(82)2167
	12	鼻緒	滋賀県花緒サンダル組合	長浜市	※ 0749(62)1162	①	
	13	特殊生糸	西村英雄	長浜市	0749(76)0236	①	
14	押絵細工	東川雅彦	近江八幡市	0748(32)2254	①		
15	近江真綿	近江真綿振興会	米原市	0749(54)0227	②		
16	輪奈ビロード	(株)タケツネ	長浜市	0749(62)0310	⑧		
陶器	17	信楽焼	信楽陶器工業(協)	甲賀市	0748(82)0831	国	
	18	膳所焼	(有)膳所焼窯元陽炎園	大津市	077(522)6374	②	
	19	近江下田焼	(有)近江下田焼陶房	湖南市	0748(71)4667	⑥	
	20	(再興)湖東焼	中川一志郎	彦根市	0749(30)0050	⑧	
木・竹工品	21	提灯	かさぜん中川善輝	長浜市	0749(62)1187	⑦	
	22	ろくろ工芸品	(有)松浦製作所	長浜市	0749(62)1703	①	
			片山木工所		0749(62)9804		
	23	竹根鞭細工	瀬川泰弘	草津市	077(562)2212	①	
	24	木製桶樽	村田茂朋(問い合わせ先)	竜王町	0748(57)0650	②	
	25	高島扇骨	滋賀県扇子工業(協)	高島市	0740(32)1580	④	
	26	上丹生木彫	上丹生木彫組合	米原市	0749(54)2921	⑤	
	27	八幡丸竹工芸品	(有)竹松商店	近江八幡市	0748(33)3268	⑦	
28	木珠(高級木製数珠玉)	(株)カワサキ	近江八幡市	0748(33)5101	⑨		

区分	番号	工 芸 品 名	製 造 業 者 名	製 造 地 域	電 話 番 号	指 定
仏 壇	29	彦 根 仏 壇	彦 根 仏 壇 事 業 (協)	彦 根 市	0749(24)4022	国
	30	浜 仏 壇	浜 仏 壇 工 芸 会	長 浜 市	0749(62)2414	①
	31	鋳 金 具	辻 清	長 浜 市	0749(62)3368	④
和 紙 ・ 文 具 ・ そ の 他	32	近 江 雁 皮 紙	(有) 成 子 紙 工 房	大 津 市	077(549)0323	②
	33	雲 平 筆	筆 師 第 15 世 藤 野 雲 平	高 島 市	0740(32)0236	①
	34	和 ろ う そ く	(有) 大 與	高 島 市	0740(22)0557	②
			北 村 雅 明	長 浜 市	0749(62)1074	⑥
	35	太 鼓	正 木 專 治 郎	愛 荘 町	0749(43)3072	②
			二 代 目 杉 本 才 次		0749(43)5504	
	36	大 津 絵	高 橋 松 山	大 津 市	077(524)5656	②
	37	梵 鐘	西 澤 吉 太 郎	東 近 江 市	0748(48)2061	⑤
	38	小 幡 人 形	細 居 源 悟	東 近 江 市	0748(48)4075	⑤
	39	愛 知 川 び ん 細 工 手 ま り	伝 承 工 芸 愛 知 川 び ん 細 工 手 ま り 保 存 会	愛 荘 町	0749(42)4114	⑨
40	い ぶ し 鬼 瓦	美 濃 邊 鬼 瓦 工 房	大 津 市	077(578)5333	⑩	
41	神 輿	(株) さ か い	野 洲 市	077(587)1178	⑩	

※滋賀県花緒サンダル組合 原田和装(株)方

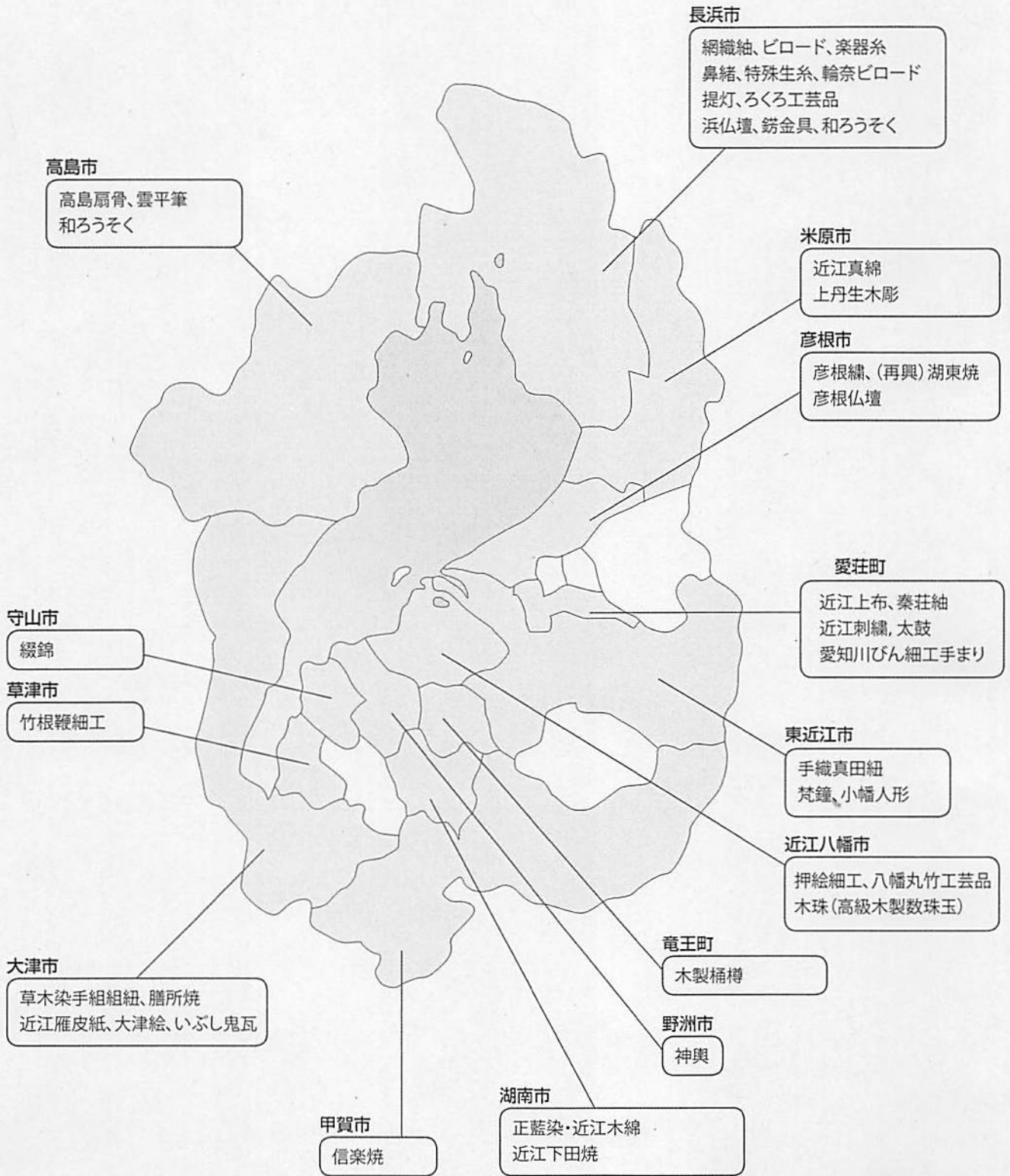
1) 1、17、29は、経済産業大臣指定の伝統的工芸品

2) 経済産業大臣指定 3品目、3件
知事指定 38品目、44件

3) 滋賀県伝統的工芸品指定の変遷

- | | |
|------------------|---------------------------------------|
| ①第1次指定 (昭和59年度) | 18品目、28件 |
| ②第2次指定 (昭和60年度) | 18品目、22件 |
| ③第3次指定 (昭和61年度) | 4品目、4件 |
| ④第4次指定 (平成3年度) | 4品目、4件 |
| 解 除 | 3品目、4件 (竹刀、下田焼、木製桶) |
| ⑤第5次指定 (平成6年度) | 3品目、3件 |
| 解 除 | 6品目、6件 (高宮ささら、和ろうそく、提灯、揉唐紙、竹かご、お多賀杓子) |
| ⑥第6次指定 (平成10年度) | 3品目、3件 |
| 解 除 | 2品目、3件 (竹刀、鋳金具) |
| ⑦第7次指定 (平成14年度) | 3品目、3件 |
| 解 除 | 3品目、4件 (網織紬、高島虎斑石硯、竹製花籠) |
| ⑧第8次指定 (平成18年度) | 2品目、2件 |
| 解 除 | 4品目、5件 (江州燈籠、竹皮細工、提灯、網織紬) |
| ⑨第9次指定 (平成22年度) | 2品目、2件 |
| 解 除 | 3品目、3件 (八田焼、竹刀、甲良臼) |
| ⑩第10次指定 (平成26年度) | 2品目、2件 |
| 解 除 | 4品目、4件 (本藍染、高島虎斑石硯、和ろうそく、八幡瓦 (鬼瓦)) |

伝統的工芸品マップ

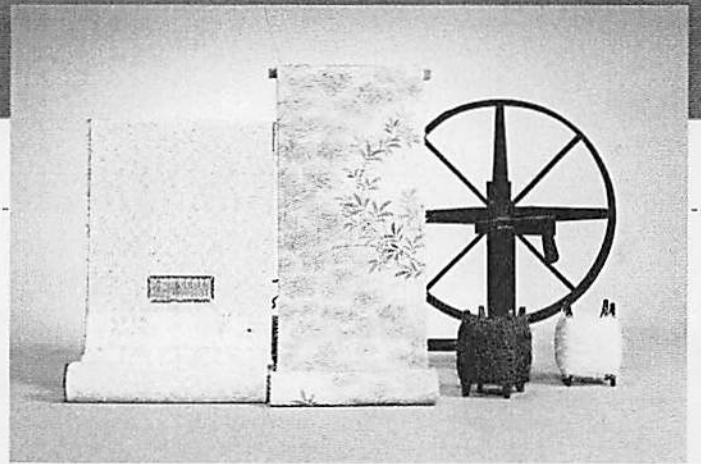
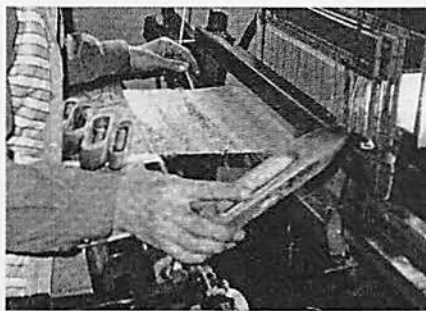


あみ おり つむぎ
網織紬

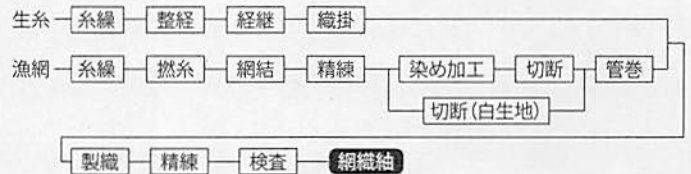


沿革・特徴

江戸中期、この地域は養蚕が盛んだったため、琵琶湖では絹の漁網が使用され、使い古したものを糸にして織り込む織物が生まれた。地域特産の生糸や日本各地の糸を縦糸に、漁網から作った糸を横糸にして織り上げていく。網を切った時のひげ状の切り口が反物の表面に出る、独特の風合いがある織物である。漁網が化繊に変わってからは、絹糸製の漁網を特注している。漁網のひげを表面に出す作業に熟練の技を要する。



製造工程



主な製品 帯、着尺、テーブルセンター、のれん、財布

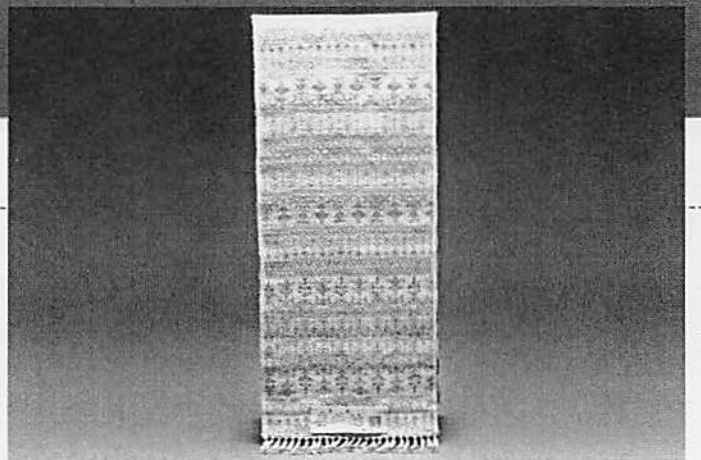
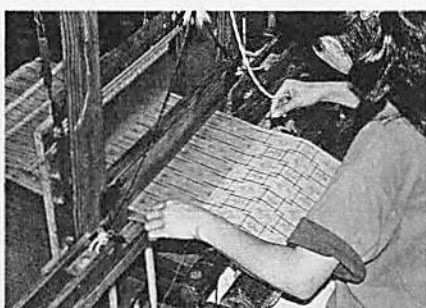
製造者 □奥田武雄 〒526-0206 長浜市郷野町519
TEL.0749-76-0733
□奥田重之 〒526-0206 長浜市郷野町512
TEL.0749-76-0369

はた しょう つむぎ
秦荘紬

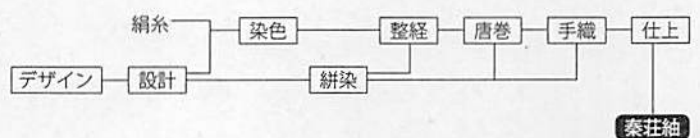


沿革・特徴

この地域は6世紀に大陸から渡ってきた秦氏が機織りの技術を伝えたことから、養蚕が盛んであった。良い繭は売り、絹糸にならない不良の繭「屑繭」から糸を紡いで、織った「紬」を自家用に着用していた。この絹織物に近江上布（麻織物）に受け継がれる「櫛押拵技法くしおしがかり」という特殊な染織技法を取り入れ、織り上げたのが秦荘紬である。1品（反物）を仕上げるのに約1ヶ月を要する。



製造工程



主な製品 着尺地、帯

製造者 川口織物有限会社
〒529-1212 愛知県愛荘町元持576-2
TEL.0749-37-3091

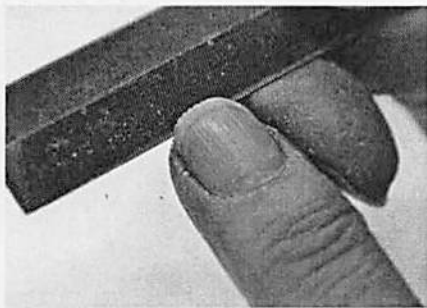
つつれ
綴

にしき
錦



沿革・特徴

つつれ織りは、千年以上前より世界各地で発祥し、シルクロードによって日本へと伝来した。その後の職人達の探求心と挑戦から生まれた製織技法が、「爪掻きつつれ」である。「爪掻きつつれ」とは、爪先をギザギザに研ぎ、道具のように巧みに使う特殊な製織技法である。「宗八」は織元として京都御室にて創業し、爪を研ぎながら織り続けてきた職人達の精神と技術を現在も継承している。



製造工程



主な製品

懐紙入れ、打敷、袱紗、帯、緞帳、山車、胴掛
テーブルセンター、ハンドバッグ、旗、袋物、袷袢

製造者

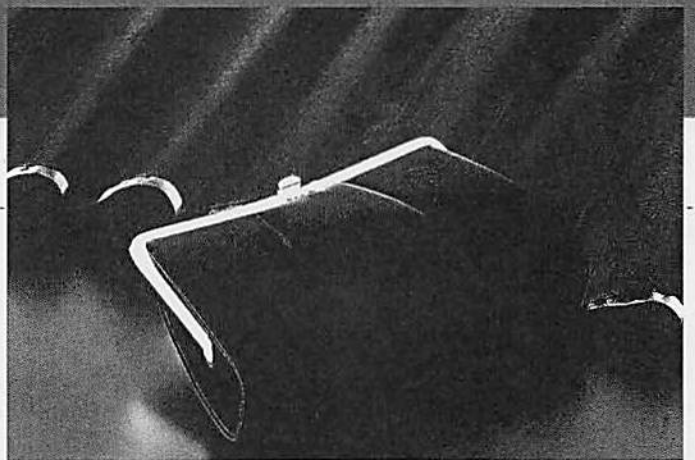
織匠[宗八]株式会社清原織物
〒524-0012 守山市播磨田町1348-3
TEL.077-583-5711
<http://www.kiyoharaorimono.jp/>
<https://www.facebook.com/sohachi>

きもうこう
ビロード(起毛工)



沿革・特徴

江戸時代中期(享保年間1716~36)に西陣から伝来した。銅またはステンレスの針金を織り込んで、輪奈をつくり、その先を小さなメスのような小刀で切って、毛羽を立てたもの(毛切、本天)と、針金を引き抜いたままのもの(輪奈天)とがあり、柔和な手ざわりと深みのある色調をもつ。工程の中の「機織」「針切」でいかに光沢を持たせるかが重要となり、特にこだわりがあり、手間がかかる場所である。通常、製作には1ヶ月を要する。



製造工程



主な製品

和装品、鼻緒、袋物、金封入れ

製造者

長浜ビロード振興協会
〒526-8501 長浜市八幡東町632番地(長浜市商工振興課内)
TEL.0749-62-4111

しょう あい ぞめ おう み も めん
正藍染・近江木綿



沿革・特徴

正藍染は、昔、阿波特産の葉藍を原料とした紺染であったが、その後四国の葉藍を当地で栽培、その染め上がりは従来のものとは異なり、光沢および堅牢さに独特の味を發揮し、名声は全国に及んだ。近江木綿は、染織した糸を手織ったものである。最盛期の大正年間には各農家で織られていたが、現在では一軒だけになった。現在も藍の栽培から発酵、染色、織りまで昔の技法が守り続けられている。ハンカチなどの藍染体験も行われている。



はあい
 正藍染は、昔、阿波特産の葉藍を原料とした紺染であったが、その後四国の葉藍を当地で栽培、その染め上がりは従来のものとは異なり、光沢および堅牢さに独特の味を發揮し、名声は全国に及んだ。近江木綿は、染織した糸を手織ったものである。最盛期の大正年間には各農家で織られていたが、現在では一軒だけになった。現在も藍の栽培から発酵、染色、織りまで昔の技法が守り続けられている。ハンカチなどの藍染体験も行われている。



製造工程

染藍—発酵—藍染—染糸—糸繰—整経—織り—**正藍染・近江木綿**

主な製品 着尺、のれん、座布団カバー、卓敷他

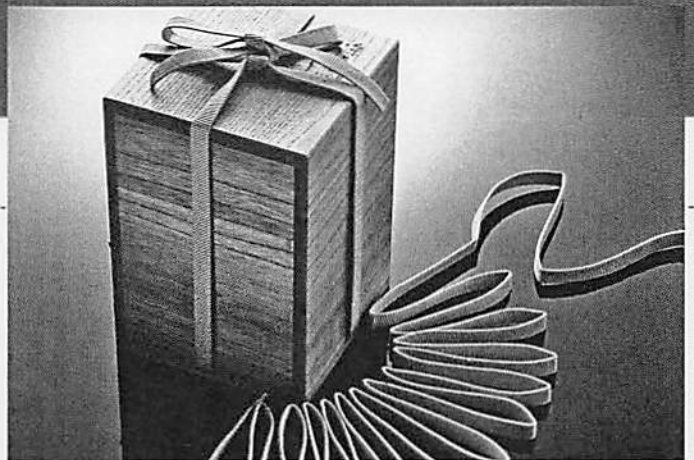
製造者 紺喜染織 植西恒夫
 〒520-3201 湖南省下田1530-1
 TEL.0748-75-0128

て おり さな だ ひも
手織真田紐



沿革・特徴

大阪城の名将、真田幸村が考案したといわれる色糸織りの手織りひもである。昔は刀のつか巻き、ヨロイのおどしなど武具に使われていた。機械化できる工程がなく、木造手動機にてすべて手仕事で行われている。真田ひもの利用は宮内庁関係と高級な茶器、美術品等の箱紐の一部に限られている。帯物で半月、袋物で1ヶ月の製作期間を要する。



製造工程

綿原糸—製練—染織—糸繰—整型—木造手動機(織機)—製織—**真田紐**
 絹原糸—

主な製品 真田ひも

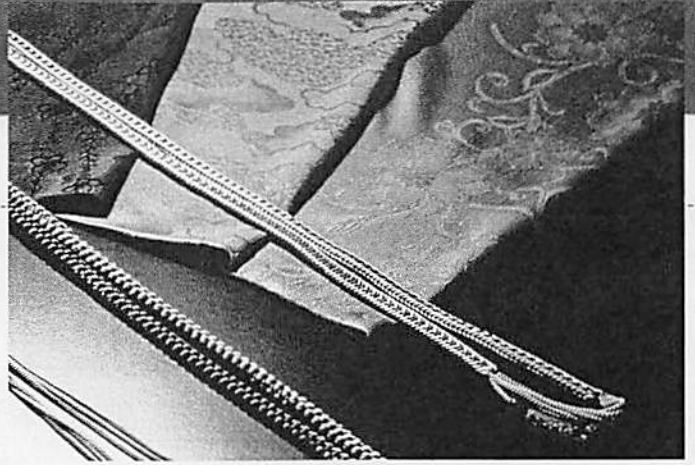
製造者 西村 幸
 〒527-0082 東近江市上羽田町613
 TEL.0748-22-2652

草木染手組組紐

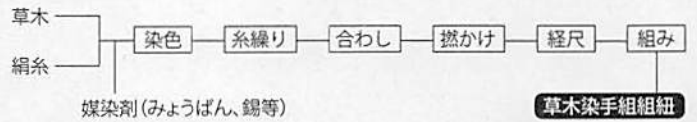


沿革・特徴

大津の組紐は、江戸時代中期に京都へ入る武士や町人の刀の下げ緒や印籠の紐を修理したことに始まるといわれている。丸台、角台、綾竹台、内記台などの組台により、百種類以上の組み方ができる。内記台は膳所藩士の内記大膳が考案し、刀の下げ緒を製作していたと伝えられる。今では大変珍しく、内記台によって組まれた帯締めは適度な伸縮性があり大変締めやすいのが特徴である。



製造工程



主な製品 帯締め、羽織紐

製造者 有限会社 藤三郎紐
〒520-0054 大津市逢坂一丁目25-11
TEL. 077-522-4065

近江刺繍

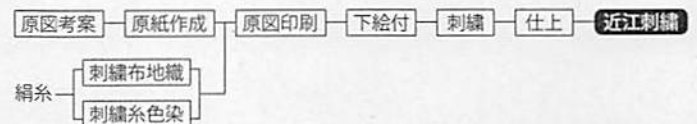


沿革・特徴

明治時代に入谷佐太郎が優れた刺繍技術である近江美術刺繍を考案した。刺繍織りという特殊な織り生地の上に絵を描いて刺繍を施したように見せ、主要部分のみ刺繍をして仕上げるものである。



製造工程



主な製品 屏風、額入刺繍、掛軸、ついたて

製造者 近江美術刺繍工芸社
〒529-1313 愛知郡愛荘町市814
TEL. 0749-42-2686

彦根 繡



沿革・特徴

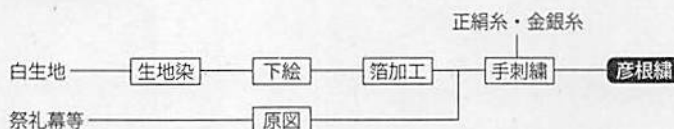
日本の風景を刺繍で表現し、明治37年にはセントルイス世界万国博覧会に出品、日本文化のシンボルとして、芸術の香り高い彦根繡は貿易刺繍と呼ばれて高い評価を受けた。着物などの美しさが一段と強調されるが、現在は高級呉服のほか、国内向け祭礼幕、装飾品等の刺繍に独特で高度な伝統の技を伝えている。

(写真提供 大阪府太子町西町会)

(写真撮影 (有)祭禮懸装品研究所 前田好雄)



製造工程



主な製品 祭礼幕、高級呉服、その他刺繍全般

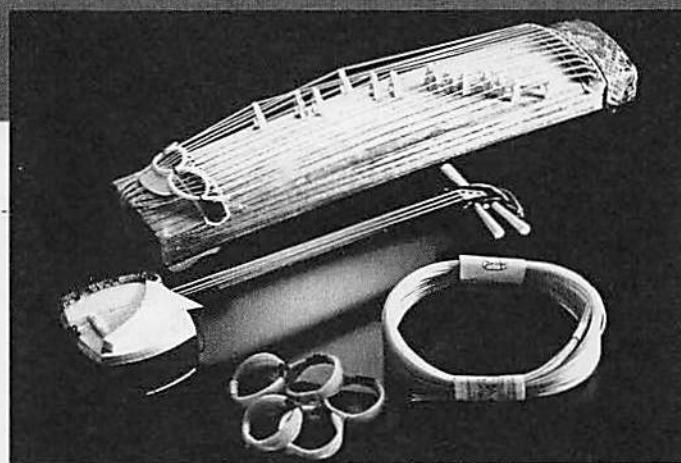
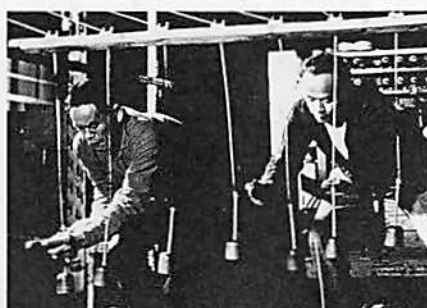
製造者 有限会社青木刺繍
〒522-0081 彦根市京町三丁目4-54
TEL. 0749-22-1258 FAX.0749-22-2144

楽 器 糸



沿革・特徴

平安時代に始まるといわれている楽器糸の生産は、長浜市木之本町の大音、西山地区での良質の生糸生産を背景に明治時代の末に始められた。当産地の座繰生糸を小枠にとり、合糸をくり返し、伝統の独楽撚り方式で撚りをかけ、餅糊で煮込み乾燥させて作る。糸が楽器の音色を出すために一番重要なのは撚りの作業であるが、さまざまな楽器に合わせた音色を出すための高度な技術を要する。全国各地のプロの演奏家からも評判が高い。



製造工程



主な製品 三味線糸、琴糸、琵琶糸、沖縄三線糸

製造者 □西山生糸組合
〒529-0433 長浜市木之本町西山825 TEL. 0749-82-4114
□木之本町邦楽器原系製造保存会
〒529-0431 長浜市木之本町大音975
TEL. 0749-82-4127 (糸と資料保存館)
●国選定保存技術 邦楽器原系製造 平成3年11月16日選定
国選定保存技術保持団体 木之本町邦楽器原系製造保存会 平成3年11月16日選定
□丸三ハシモト株式会社
〒529-0425 長浜市木之本町木之本1049 TEL. 0749-82-2167

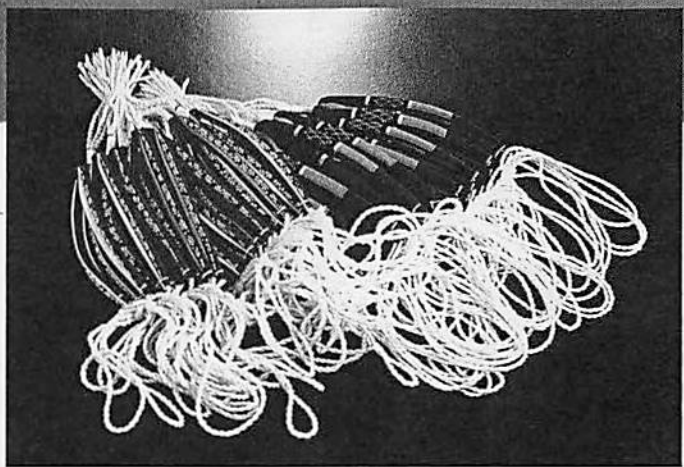
はな 鼻

お 緒

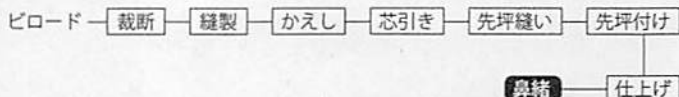


沿革・特徴

江戸時代中期、ピロードを使った鼻緒の生産が始められた。もともとはピロードを、高級花緒の原料生地として広く各地の花緒製造業者に販売していたが、昭和14年頃から長浜でピロード製織と花緒の製造との一貫的加工が行われるようになった。縫製したピロードを裏返しパイル面が表に来るようにするかえし、芯となる綿などを入れる芯引きといった工程を経てでき上がる。裁断以降の各工程は分業で行われている。全国生産の大半を占める。



製造工程



主な製品 鼻緒

製造者 滋賀県花緒サンダル組合(原田和装株式会社方)
〒526-0032 長浜市南高田町1-40
TEL. 0749-62-1162

とく 特殊 生 糸

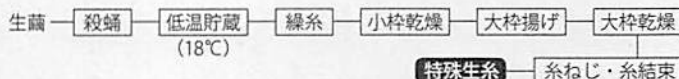


沿革・特徴

江戸時代初期から農家の副業として作られてきた。春糸は三味線・琴糸に、夏秋糸は、能装束の原糸として使われる。また、京都西陣の高級織物原糸にも用いられ、その高い品質を誇る。8個から18個の繭から糸を繰り出して、1本の糸にたぐりよせ、糸巻きに巻き取っていく。楽器糸として名高いのは、コブ(フシ)がないこと、強度と伸度に富む、優美な光沢があることに加え、楽器糸用の染料によく馴染むからである。



製造工程



主な製品 邦楽器糸の原糸、能衣装用の原糸、西陣高級織物原糸

製造者 西村英雄
〒526-0207 長浜市太田町108-1 TEL. 0749-76-0236

押し絵細工

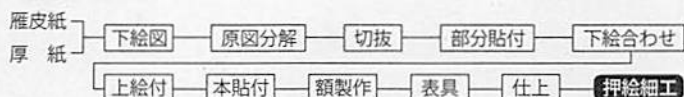


沿革・特徴

八幡押し絵は、江戸時代、彦根城の大奥女中が手なぐさみに金欄緞子長浜ちりめんを使って作ったのが始まりで、その後町屋の子女のたしなみのひとつとして広まる。二代目・東川正蔵の母が学び受け継いだ押し絵は、下絵を線描きし、その上に綿の布きれを重ね張りし、友禅柄などの彩色をする。細部にわたる押し絵と上絵付による仕上げで華やかさを出す。小箱から衝立までサイズが様々であり、製作に数ヶ月を要する製品もある。



製造工程



主な製品 押し絵細工(色紙、額入り、衝立)

製造者 東川手芸所 東川雅彦
〒523-0847 近江八幡市永原町元4
TEL. 0748-32-2254 FAX. 0748-32-5732

近江真綿

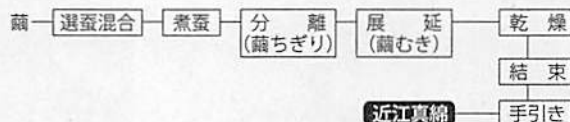


沿革・特徴

米原市多和田は全国的な真綿(繭を引き延ばして作った綿)の産地として知られている。耕地が少なく、副業を必要としたため定着したものと思われる。真綿づくりは水を張ったタライの中に繭を入れ、その真中にゲバと呼ぶ木枠を立てかけ、中の繭を取り出し、袋状の繭を四角く均一に引き延ばしてゲバに張りかける作業である。現在でも工程のすべてが手作りであり、いずれにも熟練の技術を要する。一人前になるのに3年はかかるといわれている。



製造工程



主な製品 真綿布団、真綿ちゃんちゃんこ、角真綿

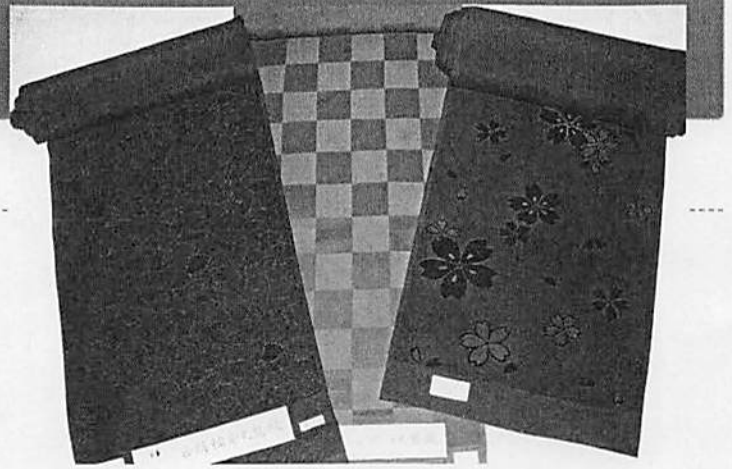
製造者 近江真綿振興会(北川キルト縫工)
〒521-0081 米原市多和田1406
TEL. 0749-54-0227

輪奈ビロード

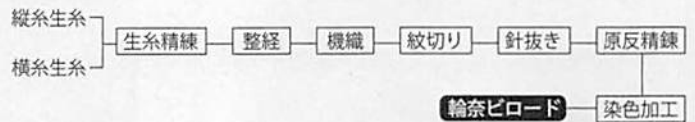


沿革・特徴

ビロードは、今から約250年前の江戸時代中期に長浜へ伝わり、原糸となる生糸の生産地であるという好条件のもとで発展した。現在では全国のビロードのほとんどを長浜で生産している。機織の際に芯材を織り込む作業や、柄に織りあがった輪奈(パイル)部分を特殊な小刀でカットする「紋切り」、芯材を抜く「針抜き」に伝統的な手法が受け継がれている。



製造工程



主な製品 紋織輪奈ビロード、ちりめん輪奈ビロード

製造者 株式会社タケツネ
〒526-0056 長浜市朝日町36-20
TEL.0749-62-0310

膳所焼

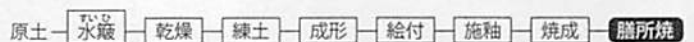


沿革・特徴

江戸時代初期に膳所藩主石川忠総が小堀遠州の指導で窯を作ったのに始まる。膳所藩のお庭焼きとして、主に大名間の贈答用の品が焼かれた。明治初期に一時中断し、大正時代に先代岩崎健三が再興した。遠州七窯の一つとして有名である。粘土は独特のねばりを持った、他にはないもので判別は容易である。膳所焼は非常に薄く軽いのが特徴であるが、ろくろで薄く水引きする技術に特に価値があるといえる。



製造工程



主な製品 茶入、抹茶碗、水指、花入、香合等茶陶全般

製造者 有限会社膳所焼窯元 陽炎園
〒520-0837 大津市中庄一丁目22-28
TEL. 077-522-6374

近江下田焼

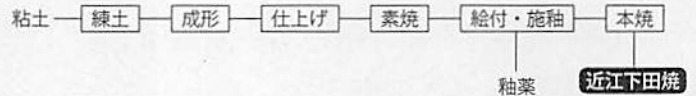


沿革・特徴

江戸時代(1750年頃)から続く下田焼。平成元年に陶工山中保蔵の死去により一旦廃窯となるが、平成6年に山中氏に師事した小迫氏を後継者に再興。「呉須」と呼ばれる藍色をした鮮やかな色合いが特徴で、大皿、湯呑み、お茶碗など種類豊富に日用雑器を作っている。素朴でシンプルなデザインが多く、長い歴史がありながら今様の新しさも感じられる焼き物である。ほとんどの工程が手作業によるものである。



製造工程



主な製品 湯呑、茶碗、急須、徳利、皿

製造者 有限会社近江下田焼陶房
〒520-3252 湖南市岩根1656
TEL. 0748-71-4667

(再興)湖東焼



沿革・特徴

江戸時代後期(1829年)に彦根城下の商人絹屋半兵衛らにより始められ、井伊直亮・直弼・直憲の3藩主の時代に彦根藩の藩窯として栄えた焼物である。この間、白く堅く焼き締まった磁器を中心に、染付・金襴手・赤絵・青磁などの細やかで美しい焼物を世に送り出した。明治28年(1895年)に閉窯となっていたが、昭和61年に中川一志郎氏が湖東焼の再興を目指して築窯し、現存する作品や文書をもとに研究作陶を重ね、技術の伝承を心かけている。極細の線で絵を描く技術には熟練を要し、種類にもよるが製作には約1ヶ月かかる。



製造工程



主な製品 茶道具、皿、湯呑、急須、花生、水指

製造者 中川一志郎
〒522-0087 彦根市芹橋二丁目2-31
TEL. 0749-30-0050

ちょう
提

ちん
灯



沿革・特徴

提灯は祭や宗教行事に現在でも欠かせないものであるが、長浜の提灯づくりは湖北地方の独特の慣習である嫁入り提灯があるのが特徴である。全国三大山車祭りとして400年以上の伝統がある、長浜曳山祭ひきやまでも活躍している。模様や文字は下書きをせずに描かれる。熟練の技により、ひとつ一つ丁寧に製作されている。



製造工程



主な製品 提灯

製造者 かさぜん 中川善輝
〒526-0059 長浜市元浜町14-20
TEL. 0749-62-1187

ろうろくろ 工芸品

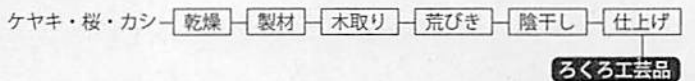


沿革・特徴

ろうろくろ工芸品とは、ろうろで材料を回転させ、ノミに似たカンナで削りだした木製品のことをいう。永源寺君ヶ畑（東近江市）がろうろ発祥の地である。長浜では江戸時代後期に始まったが、君ヶ畑の木地師の技術を受け継ぐといわれている。ケヤキ、桜、カシ、その他の木をろうろにかけ、木目を活かしながら仕上げの削りを加える。均一の厚みで外と内側を削る作業には熟練の技を要する。



製造工程



主な製品 丸盆、茶托、茶びつ、なつめ、茶器、茶筒、独楽こま

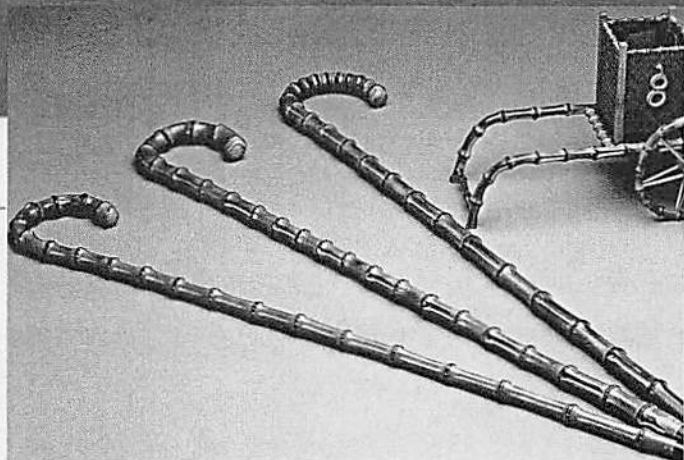
製造者 □有限会社松浦製作所
〒526-0845 長浜市小堀町368-6 TEL.0749-62-1703
□片山木工所
〒526-0023 長浜市三ツ矢町7-7 TEL. 0749-62-9804

たけねむちざい 竹根鞭細工

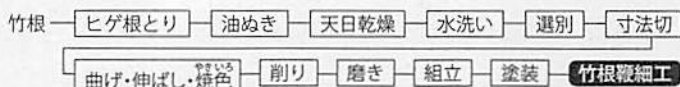


沿革・特徴

伝説では、源頼義が前九年の役で大勝し、凱旋のとき、この地に鞭を奉納したのに始まるといわれ、江戸時代には参勤交代中の侍が乗馬鞭として購入した。材料は三年生ぐらゐの真竹や淡竹の根で、天然物として独特の風趣柔軟性がある。1本1本節、太さ、質の異なる材料の竹根の選別や、商品に応じた手作業による加工・仕上げに熟練の技術と経験を要する。



製造工程



主な製品 竹根鞭、ステッキ、洋傘柄、ハンドバック柄、花立、色紙かけ、短冊、メニュー立、(部品として)竹ボタン、ネックレス、印鑑など

製造者 瀬川泰弘

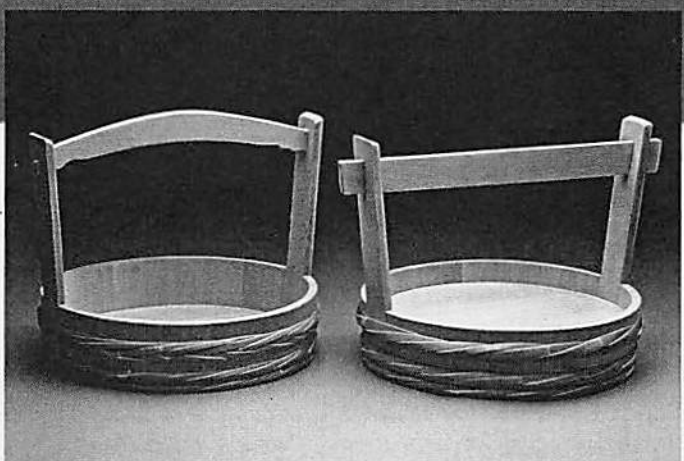
〒525-0053 草津市矢倉二丁目1-32
 TEL. 077-562-2212 FAX. 077-562-2214

もくせいおけたる 木製桶樽

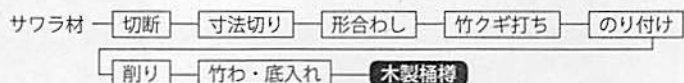


沿革・特徴

竜王町において桶・樽が製造され始めた歴史は明らかでないが、明治から戦前にかけて当地(旧鏡山村・苗村)では15軒余りが桶・樽づくりをしていた。戦後、プラスチック容器が普及するとともに木桶づくりは少なくなった。工程の中では特に勾配をつける作業に熟練の技を要する。木の温もりと手作りの温もりが伝わってくる製品である。種類にもよるが、製作には2~3ヵ月かかる。



製造工程



主な製品 酎スシ桶、漬物桶、おひつ、風呂小桶、手桶

製造者 村田茂朋(問い合わせ先)

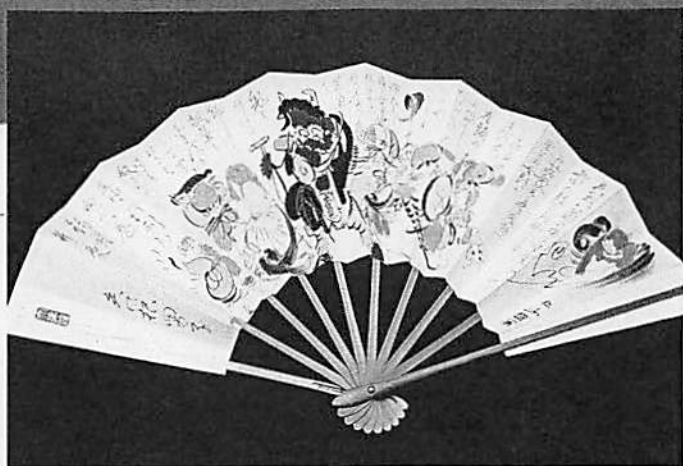
〒520-2511 蒲生郡竜王町林569
 TEL. 0748-57-0650

高島扇骨

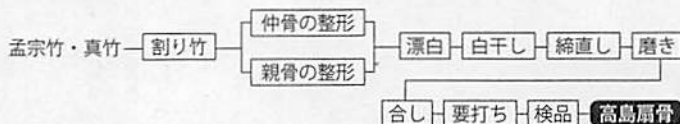


沿革・特徴

300年余り前、安曇川流域の竹を利用して作ったことに始まるといわれ、農家の副業として発展した。全国シェアの9割を占め、主に京都に出荷されて京扇子として販売されるほか、地元でも「近江扇子」として、製造販売されている。34の工程を経て仕上げられるが、工程は分業でそれぞれ職人が携わる。機械化されている作業も一部あるが、時間を要し、細かく、長年の経験に培われた技術と勘が不可欠な手作業も多い。



製造工程



主な製品 扇骨(夏扇用・舞扇用・飾扇用)、扇子

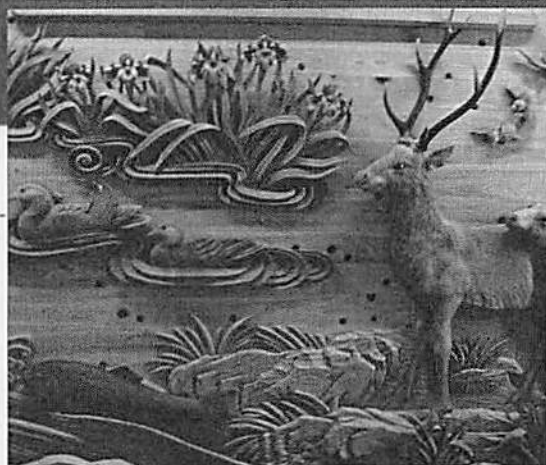
製造者 滋賀県扇子工業協同組合
〒520-1217 高島市安曇川町田中89(高島市商工会内)
TEL. 0740-32-1580

上丹生木彫

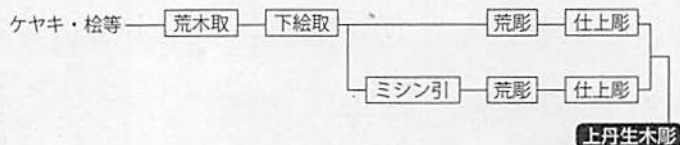


沿革・特徴

米原上丹生の木彫の起源は、江戸時代末期天保年間、当時の堂大工上田長治郎の子息の勇助と友人の二人が京都に彫刻の修行に出て、技術を持ち帰ったことに始まる。その後、神社仏閣の建閣彫刻などの大きいものから欄間や仏壇の彫刻、時代のニーズに応じた美術工芸品にいたるまで多種多様なアイテムを伝承の技術で彫り続けている。近年は木彫の里として、観光面においても注目されている。



製造工程



主な製品 仏壇・神社仏閣彫刻、山車の彫り、置物彫刻 など(木造彫刻全般)

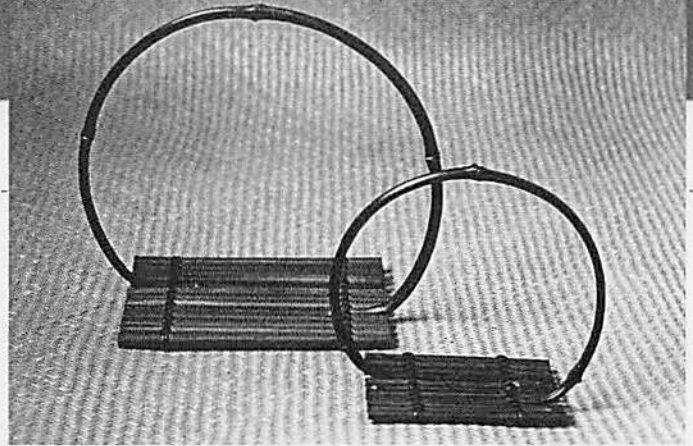
製造者 上丹生木彫組合
〒521-0033 米原市上丹生
TEL. 0749-54-2921

はちまんまるたけこうげいひん
八幡丸竹工芸品



沿革・特徴

琵琶湖にそそぐ河川沿いには多くの竹林があり、県内には多くの竹製品が生まれた。近江八幡市は竹製品の材料供給産地であったが、この資源を利用して竹加工が明治前期には始まったとされる。竹は中の空洞部分と節の部分で曲げ加工を行う時、熱加減が非常に難しく、熟練を要する。いかにきれいな曲線や円を描けるかにこだわり、手間をかけて製作している。



製造工程



主な製品 飾り窓、茶道具、取手

製造者 有限会社竹松商店
〒523-0894 近江八幡市中村町703
TEL. 0748-33-3268 FAX. 0748-32-3355

もくじゅ こうきゅうもくせいじゅずだま
木珠(高級木製数珠玉)



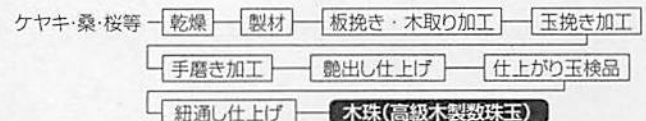
沿革・特徴

近江八幡の木珠は、聖徳太子が八幡の願成就寺を建立したときに数珠製作の技術も地元の人々に伝授したのが始まりと言われ、江戸時代以降、特産品となっている。

数珠玉そのものの生産が主流で、完成品に仕上げるのは京都の珠数屋の役割であるが、当時から生産高・品質ともに全国で抜kindでた高い地位を確立しており、現在でも市内で生産される数珠は年間100万連に達し、全国シェアの70%にのぼっている。



製造工程



主な製品 数珠玉

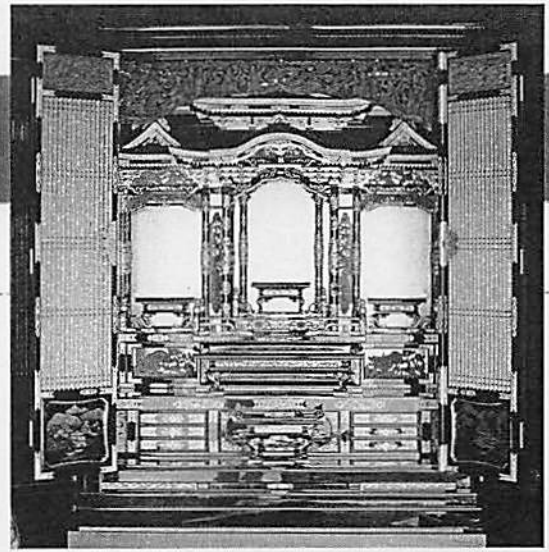
製造者 株式会社カワサキ
〒523-0894 近江八幡市中村町690
TEL. 0748-33-5101 FAX. 0748-33-5103
<http://www.kawasaki-beads.com>

はま ぶつ だん 浜 仏 壇

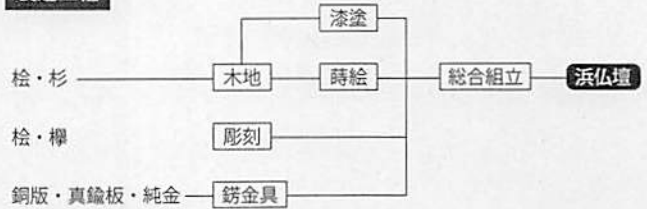


沿革・特徴

江戸時代中期(1700年代)、日本三大山車まつりの一つである、長浜曳山祭の曳山を型どり、仏壇の様式として藤岡和泉が創案した。浜仏壇の特徴としては、一切の接着材・釘などを使用しない構架組立方式であること、また彫刻は櫨もしくは桧の丸彫で白木のまま使用することである。種類や大きさにもよるが、通常6~7人の職人による分業で製作され、高級品は1年以上の製作期間を要する。



製造工程



主な製品 浜仏壇、浜仏具

製造者 浜仏壇工芸会
〒526-0052 長浜市神前町11-29
TEL. 0749-62-2414

かざり かな ぐ 鋳 金 具



沿革・特徴

長浜の鋳金具は、曳山の伝統的技術を活かして作られるもので、江戸中期以降、浜仏壇とともに確立されてきたものである。毛彫、地彫り、高肉彫り、象嵌などの彫金、金箔焼きめつき、金削めつき、せんたくたきいろなどの鍍金の技法が用いられる。



浜仏壇色絵象嵌金具



曳山見送り幕房掛け金具



工芸作品



製造工程



主な製品 浜仏壇鋳金具、文化財保存修理、神社寺院鋳金具、工芸品

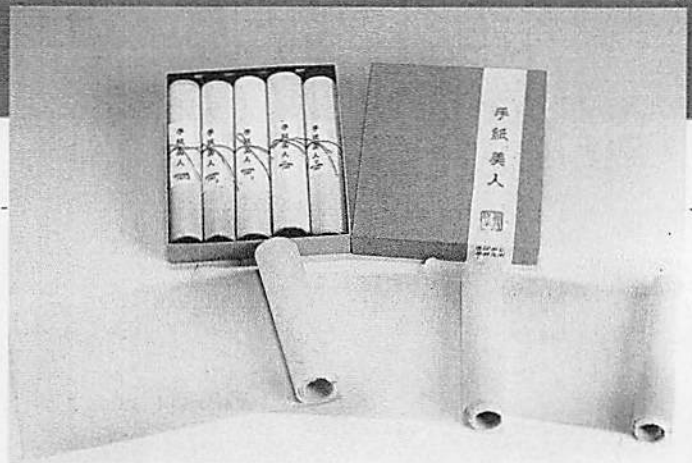
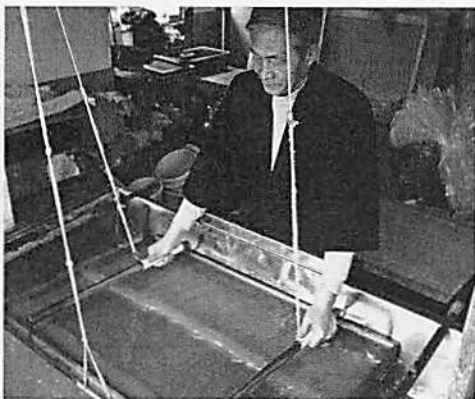
製造者 辻清(金泉堂)
〒526-0058 長浜市南呉服町2-11
TEL. 0749-62-3368
● 県選定保存技術 曳山金工品修理 平成4年3月31日選定
 県選定保存技術保持者 辻清 平成4年3月31日選定

近江雁皮紙

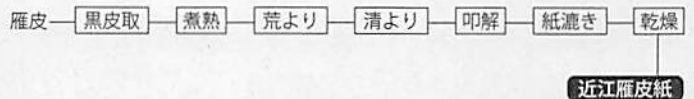


沿革・特徴

江戸時代(文政年間)に越前から製紙法がこの地に伝習されたといわれ、なるこ和紙と呼ばれる。原料の雁皮は県下の山野に自生しているものを使用し、4~5月頃に採取する。雁皮紙は滑らかな紙肌をもち、光沢があり、永久保存に耐えられるほど強じんであり、古今を通じて紙王と称され、海外ではナルコペーパーとして有名である。



製造工程



主な製品 近江雁皮紙、近江鳥之子紙、近江楮紙、江宣紙

製造者 有限会社成子紙工房
〒520-2111 大津市桐生二丁目14-26
TEL. 077-549-0323 FAX. 077-549-1611

雲平筆



沿革・特徴

江戸初期(1615年)京都にて創業し、その後正徳年間、5代雲平の時に、近衛予楽院家熙公より攀桂堂の号を賜った。芯毛を上質の和紙で巻き固め、その上に上毛をかけ、麻糸で締めるといった製法の巻筆である。腰が強く、力強い筆線が出るのが特徴で、書道家に人気が高い。原料の動物の毛の選別には目をこらし、工程の中の「芯立て」には特に時間をかける。



製造工程



主な製品 毛筆、天平筆、山馬毫藤巻筆

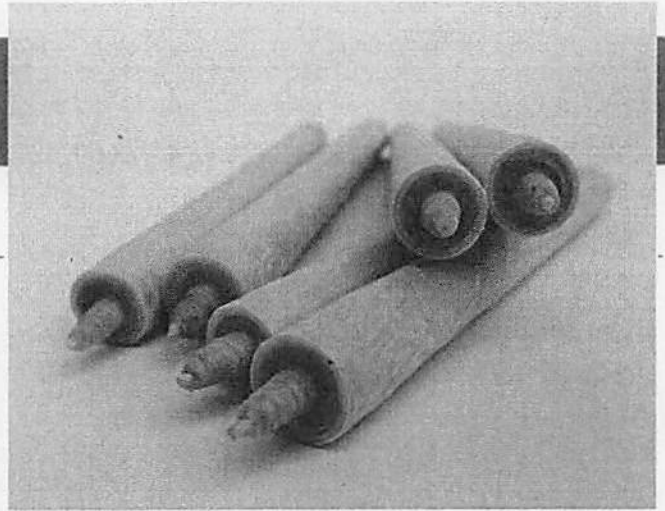
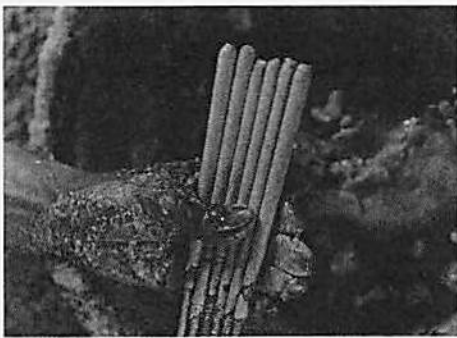
製造者 筆師第15世 藤野雲平(攀桂堂)
〒520-1224 高島市安曇川町上小川190-6
TEL. 0740-32-0236

わ 和ろうそく



沿革・特徴

ハゼの実を原料とする、昔ながらの純植物性の和ろうそくである。竹の串に灯芯を差し、串を回しながら、手でろうを幾重にも塗りつけるので、でき上がりの切り口はきれいな年輪状になる。和ろうそくは風に強く、すすが少なく(家具や仏壇が汚れにくい)、長持ちする。原料が違うろうそくが存在する中で、原料として最高であるハゼの蠟にこだわり、製造している。



製造工程

ハゼ—ハゼ蠟づくり—芯じめ—ふりかけ—下掛け—上掛け—芯出し

和ろうそく

主な製品 和ろうそく

製造者 □有限会社大興 〒520-1623 高島市今津町住吉二丁目5-8
TEL. 0740-22-0557

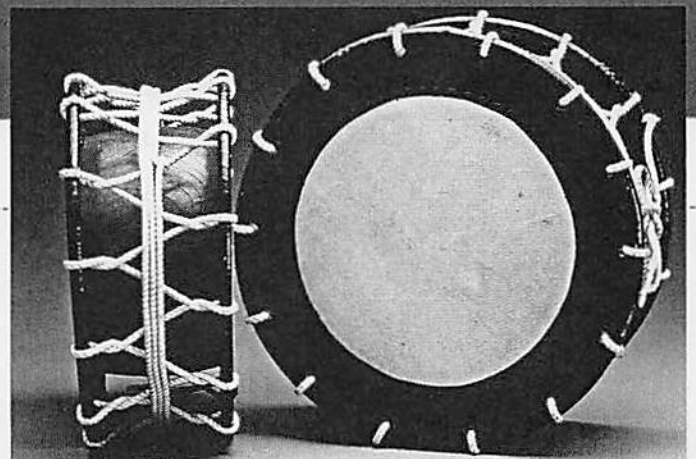
□北村雅明 〒526-0023 長浜市三ツ矢町2-22
TEL. 0749-62-1074

たい こ 太鼓



沿革・特徴

江戸時代から愛知川の良質の水を利用して皮なめしが行われ、太鼓が作られてきた。太鼓の皮は雌牛の皮が最適で、これを川の水にさらしながら1ヶ月間なめし、脱毛して自然乾燥させる。太鼓の胴にはけやきを使う。機械でできる工程がなく、体力を消耗する、全身を使って行う作業ではあるが、昔ながらの技法を受け継いでいる。



製造工程

牛皮—皮なめし—水に浸し縄で引っ張り乾燥する

再び引っ張り締め紐で止める—太鼓

主な製品 太鼓

製造者 □正木専治郎 〒529-1301 愛知郡愛荘町山川原83-1
TEL. 0749-43-3072

□二代目 杉本才次 〒529-1301 愛知郡愛荘町山川原371
TEL. 0749-43-5504

おおつえ 大津絵



沿革・特徴

寛永年間、今から約400年前より大津に伝わる民画であり、東海道大津の宿で旅人の注文に応じて描かれた。7色程度で描かれた、簡素でのびのびとした描線が特徴。芭蕉が「大津絵の筆のはじめは何仏」（大津絵師の描き初めの絵は何の仏様であろうという意味）と詠んでいるように、もともとは大衆の信仰の対象として仏画から始まった。美人画、武者絵、鳥獣画、仏画などいずれも風刺とユーモアに富み、狂言や川柳に通じる笑点を持ち、今も大津絵のもつ人間風

刺は人々に新鮮な感動をあたえ、親しまれている。



製造工程

絵、絵皿など ———— 絵付 ———— 大津絵

主な製品 大津絵、色紙、かべ絵、衝立、掛け軸

製造者 高橋松山・高橋信介(五代目松山) (株式会社大津絵の店)
〒520-0034 大津市三井寺町3-38
TEL. 077-524-5656

- 大津市指定無形文化財(四代目高橋松山) 平成12年3月15日指定
- 大津絵の店代表 五代目高橋信介

ほんしょう 梵鐘

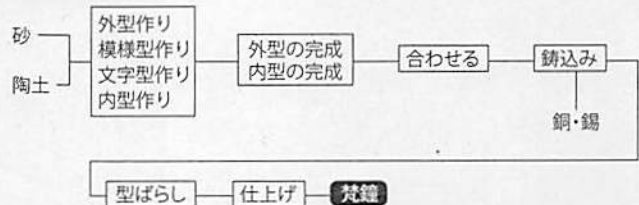


沿革・特徴

本県における鋳物加工の歴史は古く、南北朝時代にまでさかのぼるといわれているが、五個荘三俣町の西澤家には、江戸末期に鋳物師として公的に認められる文書が残されており、少なくともこれ以前には梵鐘の製造技術が確立されたものと考えられる。梵鐘の原料は銅と錫の合金で、鋳物の成形はすべて手作業であり、高度の熟練を要する。一つの梵鐘を製作するには、型作りに始まり、鋳込み、型ばらし、仕上げまで、通常2~3カ月間かかる。



製造工程



主な製品 梵鐘、鰐口、双盤、半鐘

製造者 西澤吉太郎
〒529-1424 東近江市五個荘三俣町274
TEL. 0748-48-2061

お ば た に ん ぎ ょ う 小 幡 人 形



沿革・特徴

約300年の歴史を有する小幡人形は、細居家の伝承によると、江戸時代中頃、当時飛脚をしていた初代安兵衛がたびたび追い剥ぎの被害に遭い、転業を余儀なくされ、京都の伏見人形の製法を修得し、中山道を旅する人の土産としたのが起源とされる。縁起もの、節句ものなど400以上と種類が多く、ピンクやブルーといった鮮やかな原色を主色としているのが特徴である。顔を描く作業が特に大切で難しいという。生地づくりから仕上げまで、製造には少なくとも約1ヶ月を要する。



製造工程

土練り → 型押し → 型抜き → 乾燥 → 焼成 → 窯出し → こま 胡粉ぬり → 彩色

小幡人形

主な製品 節句もの、縁起もの、教訓もの、時代もの(明治・大正)、干支など

製造者 細居源悟(九代目)
〒529-1422 東近江市五個荘小幡町808
TEL. 0748-48-4075

え ち が わ さ い く て 愛 知 川 び ん 細 工 手 ま り



沿革・特徴

明治初期に、愛荘町のお寺の裁縫塾においてびん細工が伝授され、現在は保存会が結成されている。

びんの口より大きな手まりを封じ込めている不思議さと複雑な刺繍の美しさが魅力であり、丸くて中がよく見えるその姿から、「家庭円満で仲良く見える」と言われ、縁起物として慶事の引き出物等にされてきた。

平成11年には意匠登録がされ、製品には番号を記した書類を添付するなど、技術の継承とともに品質管理にも徹底している。



製造工程

さらし・和紙・糸等 → 土台成型 → 地割 → 刺繍 → びん入れ 金糸・刺繍糸 → ワタ 手まり整形 → 仕上 → **愛知川びん細工手まり**
金罫

主な製品 びん細工手まり(慶事の引き出物、贈答品、飾り物)

製造者 伝承工芸びん細工手まり保存会
〒529-1313 愛知郡愛荘町市1673(びんてまりの館)
TEL. 0749-42-4114 FAX.0749-42-8484
<http://www.town.aisho.sihga.jp/lib/info.html#bin>

いぶし鬼瓦



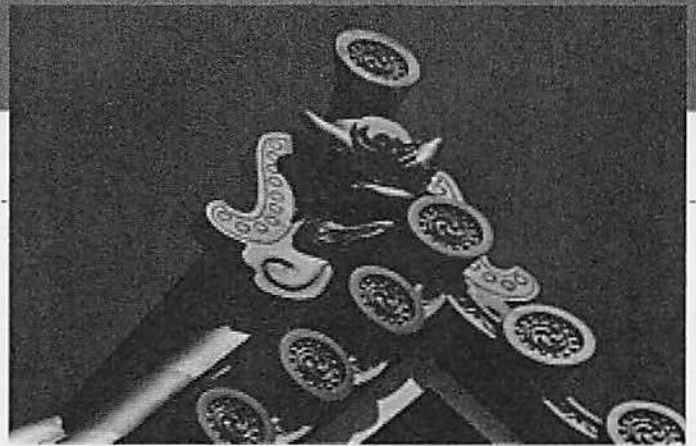
沿革・特徴

日本に瓦が伝わったのは、今から約1430年前の6世紀末。

大津ではこれより少し後の飛鳥時代につくられた瓦が穴太廃寺から出土している。以来、古代寺院の造営とともに様々な意匠の瓦が大津の地で製作された。

江戸時代初期には松本村(大津市松本)が瓦の一大産地として登場。この「松本瓦」の流れを汲む美濃邊鬼瓦工房では、今もお当時の技法により瓦屋根を飾る鬼瓦を製作している。

地域・年代・窯元に応じた鬼瓦を製作するには、高度な技能と経験を要する。



製造工程



主な製品 鬼瓦(鬼面、獅子口、肩落し、鯨、巴蓋、海津 等)

製造者 美濃邊鬼瓦工房

〒520-0104 大津市比叡辻一丁目10番8号
TEL.077-578-5333 FAX.077-578-3365
<http://www.minobe-onigawara.com>

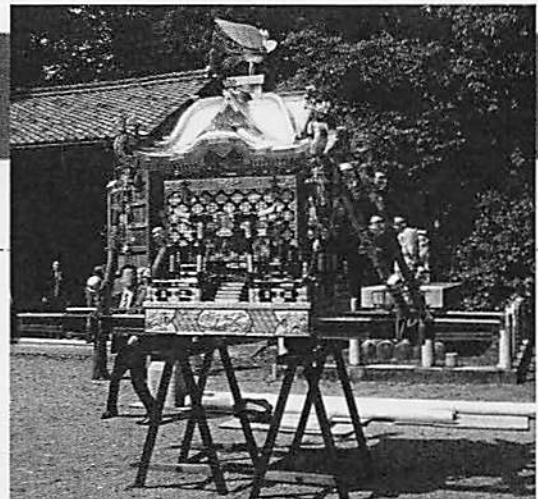
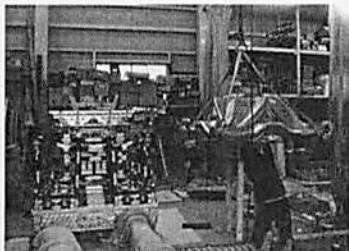
神輿



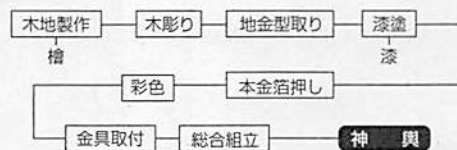
沿革・特徴

初代酒井清三郎が神輿をはじめとする祭礼・神社用品の製造・販売を手掛ける京都西本商店で明治時代に修行を始め、技術を磨いた。二代目の清も同店で修業。その後、西本商店から事業を引き継ぎ、野洲で神輿の製作販売を開始。神輿の製造とともに数多くの寺社仏閣の修復等にも取り組んできた。

三代目清裕が平成6年に新社屋の建築とともに法人化。漆の室も備えた広い作業場で木地製作から完成まで一貫して行うことができる。製造する神輿の形は京都型を基本とするが、全国のどのような神輿でも注文に応じ修理、新調することができる。



製造工程



主な製品 神輿

製造者 株式会社さかい

〒520-2331 野洲市小篠原7番地1
TEL.077-587-1178 FAX.077-587-5355
<http://www.5a.biglobe.ne.jp/~kk-sakai/>

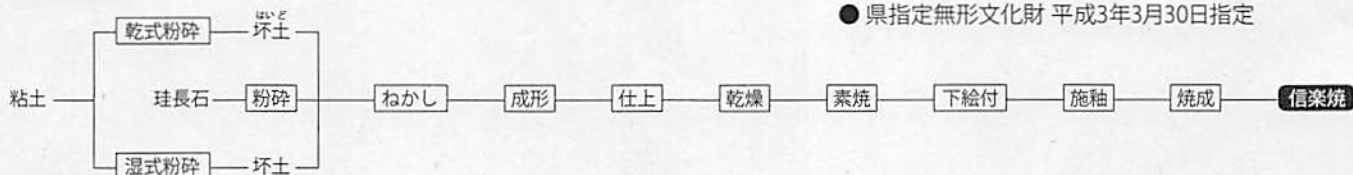
しが らき やき 信 楽 焼



沿革・特徴

信楽焼は、鎌倉時代に興ったといわれ、日本六古窯の一つ。「火色」、「焦げ(灰被り)」、「自然釉(ビードロ釉)」の3要素が特徴である。信楽で採掘した粘土は大物づくりにも適した良質の粘土であり、現在、全国の陶器産地でも多く使用されている。無釉の雑器を作ってきたが、幕末には加飾の技法が進み、絵付けを施した飲食器も作られた。今日でも大物づくりを特徴とし、独特の土味を活かした製品が作られている。

製造工程



主な製品 壺、茶器、花器、食器、植木鉢、置物

生産者団体 信楽陶器工業協同組合
〒529-1811 甲賀市信楽町江田985
TEL. 0748-82-0831

**経済産業大臣
指定年月日** 昭和50年9月4日

● 県指定無形文化財 平成3年3月30日指定

①成形(小物ろくろ)

坏土(粘土)を練台の上で力強く練る(もみ)。十分もんだ粘土をろくろの上にすえ、ろくろを回転させながら、水でぬらした両手で坏土をつかみ、延ばしたり縮めたりの作業を繰り返しながら、最後に製品1個に必要な量の坏土を上部につかみ寄せる。そのあと、親指と他の指のあいだで坏土をつかんで、ろくろの回転を利用して、成形する。



②成形(大物ろくろ)

ろくろの上に台板を置き、坏土の塊を拳で押し、たたきながら、器物の底部を所定の大きさに作り上げ、その上に紐上の坏土をねり積みしていく。必要な高さになったところで、ろくろを回転させ、水に浸した木綿布を外側にあて、内側を指先で押さえながら素地の肉厚を整えていく。



③成形(押型)

土練機で数回練った坏土をちぎって塊にし、木製の角台板の上に強く打ちあてて重ねていき、角柱あるいは円筒状の塊を作る。周囲を針金、へらで切り落として整えたうえ、その両側面に木製の定規を当てて針金で切り、坏土の板を作る。その板を、型を使って組み上げて成形する。



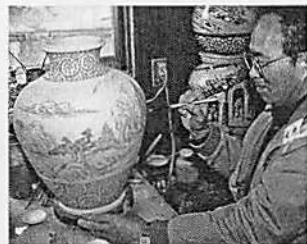
④成形(手びねり)

よく練った坏土で器物の底部を作り、その底部の外周に沿って紐状にした坏土を回し押さえながら細長く伸ばしていく。その後、円状にねじつけて所望の高さまで次から次へと紐を作って積み上げていく。この時、紐の厚さが器物の肉厚となる。

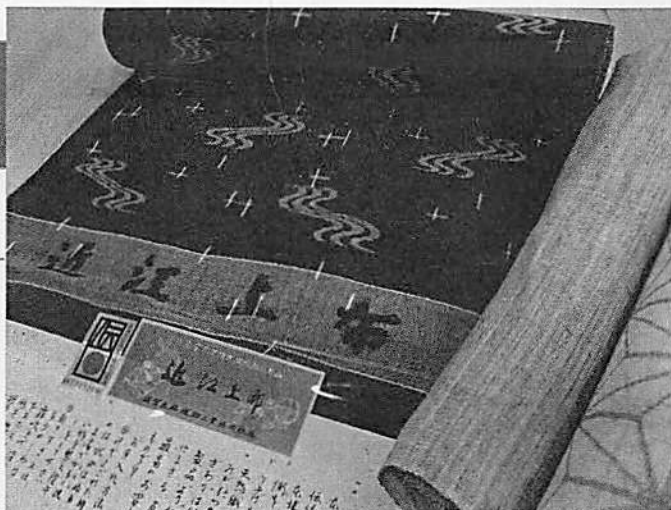


⑤絵付け

信楽焼の絵付けは、下絵付である。筆およびイチチンによる手描きで行い、ろくろ台に器物を乗せ、ろくろを回転させ絵付けする。



近江上布



沿革・特徴

愛知川の豊かな水と高い湿度といった環境や近江商人の活躍で発展した。彦根藩に保護され、藩に上納されていたことから上布と伝わる。ちよ麻糸、手うみの大麻糸を使う。地機(居座り機)で織る生平と、「なせん」で染色した紺糸による紺織とがある。企画、デザインから仕上げまでは少なくとも半年はかかる。

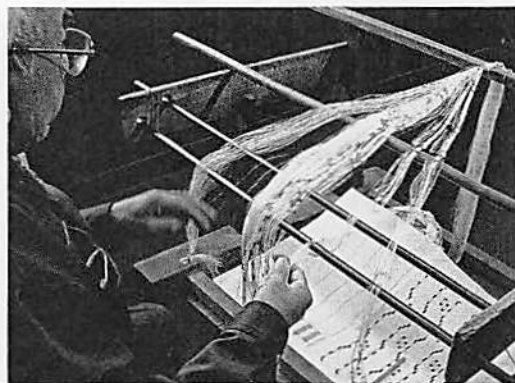
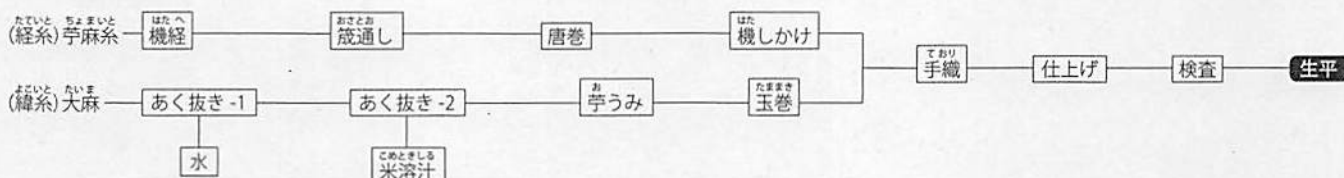
主な製品 着尺地、帯、座布団地、婦人服地

生産者団体 滋賀県麻織物工業協同組合
〒529-1331 愛知郡愛荘町愛知川113-7
TEL.0749-42-3246

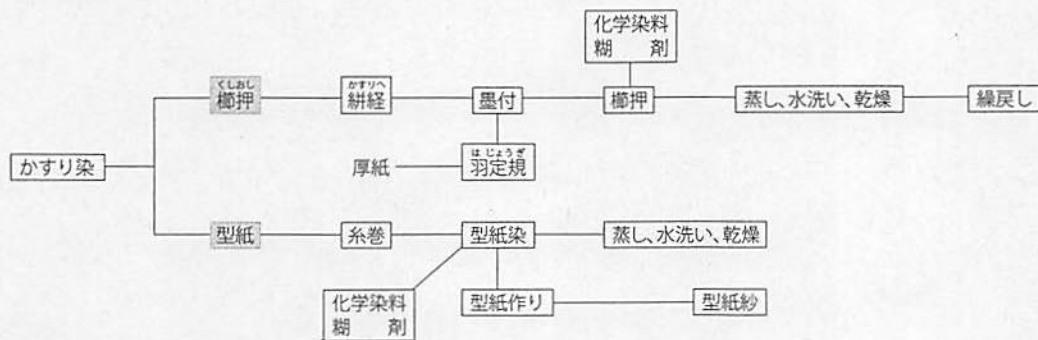
**経済産業大臣
指定年月日** 昭和52年3月30日

製造工程

〈生平 製造工程図〉



〈紺染工程図〉



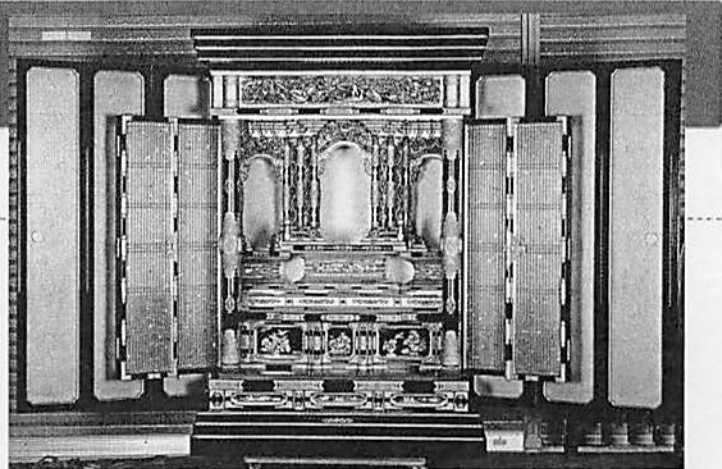
紺糸の染色方法には、「櫛押捺染」と「型紙捺染」の2つの方法があり、近江上布は経糸を櫛押捺染で、緯糸を型紙捺染で染める。「櫛押捺染」は紺柄の図案どおりに作成された羽定規を用いて糸に墨付けし、櫛の形に似た木片に染料をつけ、先に墨付けした印と印の間を印捺する。一方、型紙捺染は着尺幅の金枠に糸を巻き付け、柄彫りした型紙を置き、染めていく。そして、経糸と緯糸を高機(手織機)にかけ、柄を合わせて織りあげていく。異なった技法で染色された紺糸と緯糸によって他の型染めにはない素朴で和らいだ紺模様ができる。

彦根 仏壇



沿革・特徴

17世紀中頃に起源し、彦根藩の保護奨励下におかれて発展した。桧、杉、姫小松、樺を素材とし、七職がそれぞれ伝統の手作業で製作する。仏壇前面の木目を浮き出させる、木目出し塗りや、金箔の艶消押しが特色とされている。



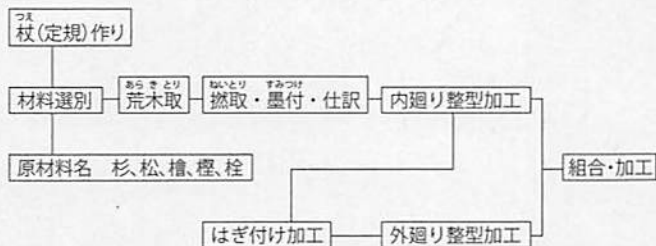
主な製品 塗仏壇

生産者団体 彦根仏壇事業協同組合
〒522-0063 彦根市中央町3-8(彦根商工会議所内)
TEL. 0749-24-4022

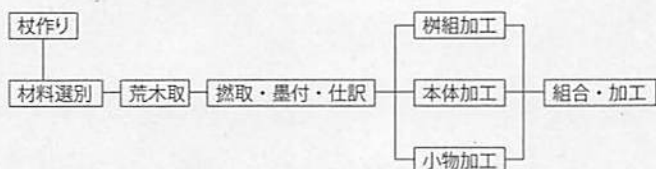
経済産業大臣
指定年月日 昭和50年5月10日

製造工程

①木地 厳選された木材で仏壇の本体を作る。



②宮殿(屋根) 細かい部分を手仕事で作し、各々組立式に屋根を作る。



③彫刻 図柄を選定し、桧・松などの木材に、のみ・小刀などで手彫りする。



④塗

かたちづかれた木地の上に下地加工したのち、天然精製うるしを手塗りする。



⑤金箔 天然精製うるしにて純金箔を一枚ずつ張り付ける。



⑥鋳金具 銅その他の地金に手加工で金彫したのち、仕上げをし、純金加工を施す。



⑦蒔絵

艶色加工した上に漆などで下絵を描き、その上に金粉・銀粉・貝などを蒔き、さらに加筆する。



⑧総合組立て

各工程の完了したものを1カ所に集め、総合的に最終組立てをする。

伝統工芸士一覧

伝統工芸士は経済産業大臣指定の伝統的工芸品の製造に12年以上従事する者のうち、(財)伝統的工芸品産業振興協会が実施する伝統工芸士試験の合格者に与えられる称号です。

県内の伝統工芸士は下記の方々です。(平成27年1月現在)

信楽焼

氏名	認定部門	認定年度	住所
大西 忠左 (忠左)	総合	昭和51年度	甲賀市
高橋 光夫 (桑齋)	総合	昭和51年度	甲賀市
奥田 周弘 (周弘)	成形	昭和51年度	甲賀市
松本 修 (信齋)	成形	昭和51年度	甲賀市
三笥 茂美 (美峰)	総合	昭和53年度	甲賀市
上田 宗寿 (寿方)	総合	昭和53年度	甲賀市
奥田 和夫	成形	昭和53年度	甲賀市
森岡 龍三 (香苑)	加飾	昭和53年度	甲賀市
小 谷 光二	成形	平成3年度	甲賀市
西尾 康文 (陶舟)	成形	平成3年度	甲賀市
奥田 英行 (英山)	総合	平成3年度	甲賀市
谷 吉博	総合	平成3年度	甲賀市
田中 文三 (文泉)	成形	平成3年度	甲賀市
富増 純一 (壺久郎)	総合	平成3年度	甲賀市
大 原 薫	総合	平成3年度	甲賀市
奥田 文悟 (文五郎)	総合	平成10年度	甲賀市
宇田 隆和 (左平)	総合	平成10年度	甲賀市
今井 宏重 (重蔵)	成形	平成10年度	甲賀市
小西 啓吾 (紫香)	成形	平成10年度	甲賀市
松本 好広	成形	平成10年度	甲賀市
今井 晃治 (日光)	成形	平成10年度	甲賀市
谷 敏隆	成形	平成10年度	甲賀市
松本 正喜	成形	平成10年度	甲賀市
高 原 誠治	総合	平成18年度	甲賀市
奥田 英明	総合	平成18年度	甲賀市
水谷 勝己 (双芳)	総合	平成18年度	甲賀市
小 川 顕三	総合	平成18年度	甲賀市
川 口 隆之	総合	平成18年度	甲賀市
高橋 廣道	総合	平成18年度	甲賀市
村井 信幸 (信瑛)	総合	平成18年度	甲賀市
奥田 康人	総合	平成18年度	甲賀市
徳地 祐二	総合	平成18年度	甲賀市
嶋田 浩造	総合	平成18年度	甲賀市
篠原 希勝	総合	平成18年度	甲賀市
吉田 勝	総合	平成18年度	大津市
神崎 倍充	総合	平成18年度	甲賀市
谷 信男	総合	平成18年度	甲賀市
五 島 伸行	総合	平成18年度	甲賀市
岡本 公延 (一統)	総合	平成19年度	甲賀市
今井 廣 (廣)	総合	平成24年度	甲賀市
小 川 記一	総合	平成24年度	甲賀市
藤本 秀俊 (藤本秀)	総合	平成24年度	甲賀市
松吉 希美子 (マツキチ)	総合	平成24年度	湖南市
辻 周	総合	平成24年度	甲賀市
古 谷 剛敏	総合	平成24年度	甲賀市
釘 田 誠史	総合	平成24年度	三重県伊賀市
上 田 宗	総合	平成24年度	甲賀市
藤原 純 (古仙堂)	総合	平成24年度	甲賀市
大西 左朗 (左朗)	総合	平成24年度	草津市

近江上布

氏名	認定部門	認定年度	住所
野々村 美美子	製織	昭和56年度	愛知郡愛荘町
吉岡 友一	意匠	平成5年度	愛知郡愛荘町
川口 長蔵	意匠	平成5年度	愛知郡愛荘町
大西 實	総合	平成16年度	彦根市
川村 隆一	製織	平成5年度	愛知郡愛荘町
伊谷 昌吉	仕上	平成5年度	東近江市
中村 茂	仕上	平成5年度	東近江市
大橋 富美夫	仕上	平成16年度	東近江市
大橋 政男	仕上	平成16年度	東近江市
上田 美智男	仕上	平成16年度	東近江市

彦根仏壇

氏名	認定部門	認定年度	住所
秋道 貞治	漆塗	昭和50年度	彦根市
岡村 正雄	金具	昭和52年度	彦根市
高木 俊雄	漆塗	昭和54年度	彦根市
松宮 三郎	木地	昭和63年度	彦根市
大橋 和夫	木地	昭和63年度	彦根市
鳥田 政義	漆塗	昭和63年度	彦根市
葉茂 政宏	木地	平成5年度	彦根市
関 新二郎	宮殿	平成5年度	彦根市
田中 正司	宮殿	平成5年度	彦根市
森 哲荘	彫刻	平成5年度	米原市
寺村 勇	漆塗	平成5年度	彦根市
元持 久雄	漆塗	平成5年度	犬上郡豊郷町
辻 利昌	木地	平成7年度	彦根市
吉田 邦章	彫刻	平成7年度	米原市
吉田 博	漆塗	平成7年度	彦根市
中川 龍吉	蒔絵	平成7年度	彦根市
佐渡 正明	金具	平成7年度	彦根市
宮川 勉	漆塗	平成10年度	愛知郡愛荘町
清水 隆司	漆塗	平成10年度	彦根市
武田 善和	漆塗	平成10年度	彦根市
岩崎 澄夫	箔押	平成10年度	彦根市
宮本 美弘	箔押	平成10年度	彦根市
磯部 二三男	箔押	平成10年度	愛知郡愛荘町
七里 喜八	蒔絵	平成10年度	彦根市
田中 洋一	金具	平成10年度	彦根市
早野 康晴	金具	平成10年度	彦根市
大橋 政次郎	金具	平成10年度	彦根市
中嶋 宏	金具	平成10年度	彦根市
細居 宏次	木地	平成16年度	彦根市
秋道 恵一	漆塗	平成16年度	彦根市
中嶋 誠作	漆塗	平成16年度	彦根市
舟越 丈二	蒔絵	平成16年度	彦根市
葉茂 聡子	箔押	平成16年度	彦根市
宮川 浩	箔押	平成16年度	愛知郡愛荘町
竹村 知子	箔押	平成16年度	彦根市
木村 数茂	金具	平成17年度	彦根市
山下 剛	宮殿	平成17年度	彦根市
山下 学	木地	平成21年度	彦根市
森 靖一郎	彫刻	平成21年度	米原市
畦 元徹	漆塗	平成21年度	彦根市
北村 順治	蒔絵	平成21年度	彦根市
中村 隆一	箔押	平成21年度	彦根市
大橋 賢嗣	木地	平成24年度	彦根市
大塚 勉	漆塗	平成24年度	彦根市
井尻 一茂	彫刻	平成24年度	米原市
山本 輝夫	蒔絵	平成24年度	東近江市
辻橋 正一	箔押	平成24年度	彦根市
吉田 真一郎	蒔絵	平成24年度	米原市
中川 豊章	金具	平成24年度	長浜市

滋賀の伝統的工芸品

平成4年3月	初版発行
平成5年3月	第2版発行
平成7年6月	第3版発行
平成11年11月	第4版発行
平成15年10月	第5版発行
平成20年3月	第6版発行
平成23年3月	第7版発行
平成27年3月	第8版発行

発行 滋賀県商工観光労働部中小企業支援課
大津市京町四丁目1-1
TEL 077-528-3731



この印刷物は古紙バルブを配合しています